

高等学校 国語

□ 次の講演記録に基づく文章を読んで、後の問いに答えよ。

著作権法に基づき、問題本文の掲載は省略します。

出典は、辻邦生『詩と永遠』(岩波書店)より  
なお、表記等の一部改めたものがある。

問一 次の一文は、本文中のどの語句の後に入れるのが適切であるか。直前の六字を答えよ。ただし、句読点も字数に数える。

すなわち、この好きの源、つまり歌を詠むということの根底に好きという状態がないといい歌は詠まれない。

問二 (1) 空欄ア、オに適する語句を、それぞれ本文中から抜き出して答えよ。

(2) 空欄イ、ウに適する語句を次の中から選び、記号で答えよ。

- |   |     |   |     |   |     |   |     |
|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| a | つまり | b | さらに | c | しかし | d | むしろ |
|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|

(3) 空欄エには、松尾芭蕉およびその門流の俳風を示す言葉が入る。漢字二字で記せ。

問三 傍線部①「煩」と⑦「詠」の漢字は読み方を答えよ。また、②「オド」と③「キヨゼツ」の片仮名は漢字に改めよ。

問四 傍線部④は、道元の「尽十方世界これ一顆の明珠なり」という言葉によつていと思われるが、この道元の言葉はどのような意味か。次から最も適切なものを一つ選び、記号で答えよ。

- |   |   |
|---|---|
| a | 無心な状態になると、小さな一粒の珠も十方世界のような摩訶不思議な存在にみえてくる。 |
| b | 無心な状態になると、この十方世界にある自分が一粒の珠同様に、ささやかにみえてくる。 |
| c | 無心な状態になると、この十方世界も一粒の珠と同じような価値ある存在にみえてくる。  |
| d | 無心な状態になると、この十方世界が澄み渡り一粒の透きとおった珠のようにみえてくる。 |

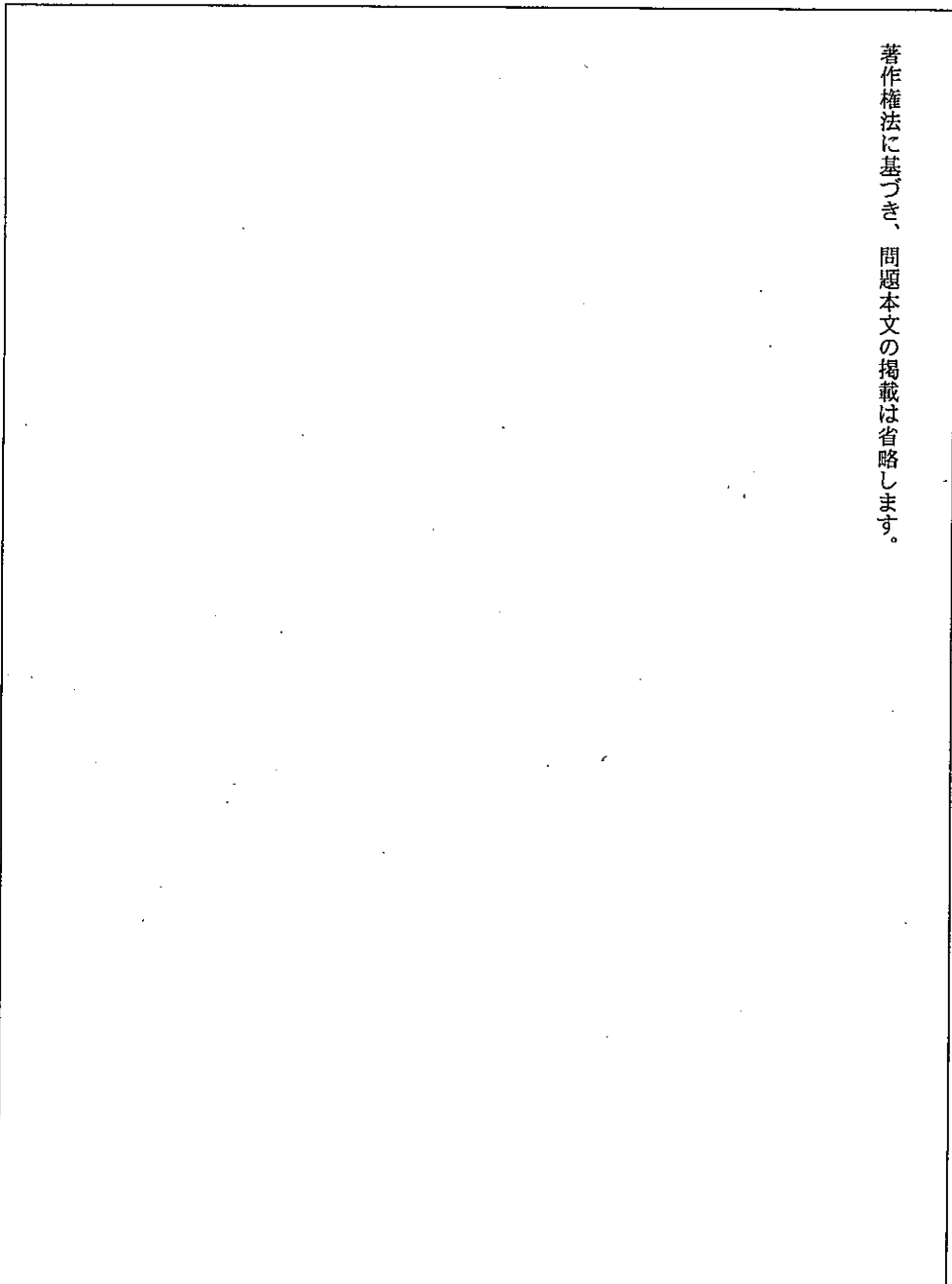
問五 傍線部⑤「昂揚感」を、具体的にわかりやすく言い換えるかどうか、文章中の言葉で十五字以内で抜き出せ。

問六 傍線部⑥「歌仙」に関連して、「古今集仮名序」に「近き世にその名きこえたる人」として挙げられた「六歌仙」のうち、二人の姓名を漢字で記せ。

問七 傍線部⑧「そのどれもが同じ状態」とあるが、同じ意味の表現を十一字で抜き出せ。

二 次の記事は、『平家物語』の一節で、徳大寺左大将実定卿が旧都の月のなつかしさに福原から京の都に帰り、近衛河原の大宮(左大将の妹)を訪ねた折りの記事である。これを読んで、後の問いに答えよ。

著作権法に基づき、問題本文の掲載は省略します。



出典は、「平家物語・上新 日本古典文学大系44」(岩波書店)より  
なお、表記等で一部改めたものがある。

問一 空欄A、Bに適する語を、それぞれ漢字一字で本文中から抜き出せ。

問二 次の語句は、本文中のどの語句の後に入るのが適切であるか。直前の五字を答えよ。ただし、句読点も字数に数える。  
「昔いまの物がたりして」

問三 次の文法に関する問いに答えよ。

- (1) 傍線部①「けり」を、適切な形に活用させ、記せ。
- (2) 傍線部③「かは」のここでの意味は何か。次の中から選び、記号で答えよ。

- |      |      |      |      |
|------|------|------|------|
| a 疑問 | b 反語 | c 強意 | d 並列 |
|------|------|------|------|

問四 (3) 傍線部④、⑤の「れ」はともに助動詞であるが、その違いを意味を中心に簡潔に説明せよ。

(1) 傍線部②を、必要な語を補いながら、わかりやすく現代語訳せよ。

問五 (2) 傍線部⑥「くまなくて」は、「月の光」がどのような状態であるか、簡潔に説明せよ。

問六 傍線部⑦「みな袖をぬらされける」とあるが、大宮や女房たちがみな袖をぬらしたのはなぜか、五十字以内で説明せよ。

問七 傍線部⑨で、大將は、だれの、何に、感心したのか、五十字以内で説明せよ。

問八 次は、『平家物語』に関する説明である。空欄に適する語句を漢字で答えよ。

内容としては源平の興亡を扱い、仏教的（ア）親を基調としている。（イ）曲として琵琶法師によつて語られ、漢語、和語、仏教語、雅語、俗語などを駆使した、いわゆる（ウ）文で書かれている。同じ軍記物語に属する、他の作品として、（エ）などがあげられる。
--

三 次の漢文を読んで、後の問いに答えよ。

著作権法に基づき、問題本文の掲載は省略します。

出典は、『新釈漢文大系第72巻 唐宋八大家文読本（三）』（明治書院）より  
なお、表記等で一部改めたものがある。

- 問一 傍線部①「師魯」の姓名を漢字で記せ。
- 問二 傍線部②「識ると識らざると、皆之を稱して師魯と曰ふ。」について、次の問いに答えよ。  
 (1) この書き下し文をもとに、解答欄に返り点及び送り仮名を施せ。  
 (2) 「師魯」は字であるが、人々が本名で呼ばないのは、どのような理由によるものか、簡潔に説明せよ。
- 問三 傍線部③「蓋」、⑤「必」、⑦「已」について、文中での読み方を送り仮名も含めて平仮名で答えよ。
- 問四 傍線部④「無愧於古君子」について、次の問いに答えよ。  
 (1) 漢字仮名交じりの書き下し文に改めよ。  
 (2) 現代語訳せよ。
- 問五 傍線部⑥「之」は何を指すか。該当する部分を原文のまま抜き出せ。
- 問六 本文中、世の人々は、師魯のどのような点に着目し、評価しているか。その三つを、それぞれ漢字二字で記せ。(訓点不要)
- 問七 本文は、唐宋八大家の一人、欧陽脩の作品である。唐宋八大家で彼以外の一人の姓名を記せ。

〈以下 余白〉